

冷たいお菓子が出てくる絵本

さわやかな日が続き、夏の訪れを感じさせる季節になりました。この時期は冷たい食べ物、よりおいしく感じられますね。今回は冷たくておいしいお菓子が出てくる絵本を紹介します。

1冊目は柘野浩一/文、目黒雅也/絵「あれたべたい」です。

誕生日にたべたいものを聞かれた男の子。いつか、ばあばとたべた、あれがいい！だけど名前が思い出せない……。あれはとってもあま〜くて、あれはとってもひ〜んやり、あれはとってもふわっふわ。「あれ」を探しに男の子はお父さんと一緒に街をめぐります。ゼリーみたいでゼリーじゃない、プリンみたいでプリンじゃない、アイスみたいでアイスじゃない。あれはいったいなんだっけ。五七調のリズムがこちよ一冊です。

2冊目はさとうめぐみ/作・絵「アイスキッズのぼうけん」です。

主役は、アイスクリームの3兄弟、ソーダラムネくん、マンゴーちゃん、チョコミントくん。3兄弟のお母さんはお庭できれいなかき氷のお花を育てています。たくさんの氷のお花は色とりどりのシロップでとってもきれい。このシロップはこおり山からとれると聞いて、3人はこおり山へ向かいます。しかし、こおり山には怖い妖怪が住んでいるといわれていました。アイスキッズたちは無事にシロップを見つけることができるのでしょうか。アイスクリームの他にも、ドーナッツやかき氷など、たくさんのお菓子のキャラクターが登場する楽しい一冊です。

3冊目はかがくいひろし/作・絵「なつのおとずれ」です。

おはなしは「梅雨明けはもうすぐでしょう」と、天気予報士のかたつむりが伝えるシーンから始まります。それをテレビで見た太陽は立ち上がり、つぶやきます。「そろそろみんなに知らせるか」。まず、メロンとスイカが誰かに呼ばれたような気がしました。それに続いて、セミ、カブトムシ、かき氷、ソフトクリーム、扇風機とひまわりも呼ばれたようです。呼び声を聞いて、みんなは立ち上がり、一斉に走り出します。後から蚊取り線香やとうもろこしたちもついてきて……。夏が待ち遠しくなる一冊です。

図書館にはこの他にもさまざまな絵本があります。是非図書館にお越しください。